社会福祉援助における「生活モデル」の意味

社会福祉辞典および養成テキストにおける用語の分析から

○　愛知淑徳大学　　末田　邦子（6043）

キーワード：社会福祉援助・養成教育・生活モデル

１．研 究 目 的

近年の社会福祉実践や社会福祉士・精神保健福祉士養成教育では、「生活モデル」という用語が多用されている。生態学理論を背景にしたエコロジカル・ソーシャルワークとしての「生活モデル」が 1980 年に米国で登場して以来、「生活モデル（ライフモデル）」は IFSW のソーシャルワークの定義の基本を成す程に重要視されている。また障害児療育や精神障害者の支援等においても「生活モデル」による支援が提唱されている。さらに医学・医療の分野でも、患者の身体的側面を重視する「医学（メディカル）モデル」からの転換として、心理社会的側面を重視した「生活モデル（「リハビリテーションモデル」「社会モデル」）が近年注目されている。

本研究の目的は、このような背景の中で社会福祉援助や養成教育において多用されている「生活モデル」という用語の定義の整理を行い、どのように意味づけされているのかを分析することにある。具体的には、社会福祉辞典や辞書、用語集および養成教育で使用する養成テキストを分析し、検討した。

２．研究の視点および方法

本研究は文献研究である。第一に、社会福祉分野計 11 冊の辞典、辞書、用語集で述べる「生活モデル」に関して整理を試みた。第二に、社会福祉士・精神保健福祉士の養成機関で使用する、弘文堂、全国社会福祉協議会、中央法規出版、へるす出版、ミネルヴァ書房が発行している最新版の養成テキスト（『相談援助の基盤と専門職』『相談援助の理論と方法（タイトルの異なる出版社あり）』『精神保健福祉相談援助の基盤』『精神保健福祉の理論と相談援助の展開』）から、それぞれが述べる「生活モデル」を比較し、整理を行った。以上の結果を踏まえて、「生活モデル」の今日的な意味について試行的に考察、検討する。

３．倫理的配慮

本研究は、一般社団法人日本社会福祉学会の研究倫理指針を遵守する。

４．研 究 結 果

まず、11 冊の辞典辞書、用語集を検討した結果、以下の５点が明らかになった。

第一に、その定義について、ジャーメインらによって体系化されたものであることは共通しており、ジャーメインらとの相違を述べられたものはみられなかった。

第二に、医学モデルとの関連性について、①「対するもの」「批判として登場」との位置づけの一方、②生活モデルが医学モデルを「包み込む」ものとされる記述もみられた。

第三に、「短期間の処遇および対処の方法に重点が置かれ」「多様な介入の方法を利用者の活用に合わせて対応し活用」と示され、生活モデルの不適応例について述べられたものもみられた。

第四に、「医学モデルに代わる社会福祉実践のモデルとして発展」とされながらも、「説得力のあるものとして体系化されるところまで至っていない」とのする記述もみられた。

第五に、用語の定義において「ソーシャルワークにおける」と但し書きがされている記述がみられた。以上である。

次に、養成テキストを検討した結果、以下の５点が明らかになった。(一つのテキスト内で複数の著者が述べているものもある)。

第一に、その定義について、①ジャーメインらのライフモデルと同一のものと位置づけ、ジャーメインらの理論の紹介や理論の発展を追う記述がある一方、②ジャーメインらのライフモデルとは「異なる」と位置づけた記述もみられた。

第二に、医学モデルとの関連性について、①医学モデルからの「転換」や「対照」とされている一方、②医学モデルとの「並列」と位置づけた記述もみられた。

第三に、第二の点ともつながる実践モデルにおける位置づけについて、②基本的枠組みの一つ、③中核に位置づけつつ他のモデルとの混成活用の必要性の提起、④16 のモデルのうちの一つ、と異なる位置づけがされていた。

第四に、「『視座』『モデル』『アプローチ』のどのレベルを土俵としているのか共通認識」の必要性について言及し、それらの「混乱と混同がみられる」との記述がみられた。

第五に、「重要なのは『モデル』の概念整理や解説をすることではなく、現場で活用可能な実践方法へと多様な形で具体化していくことにある」と、現場の実践への具体化に関して言及した記述がみられた。以上である。

５．考 察

本研究の結果を考察すると、今後の課題として以下の 3 点が抽出される。第一に、社会福祉援助における「生活モデル」について、述べられている他の実践モデルの分析と併せた検討の必要性、第二に、社会福祉援助における「生活モデル」が文献や養成テキストにおいてどのように扱われてきたのかその経緯の検討の必要性、第三に、「モデル」の示す意味ついて、社会福祉以外の分野の研究や実践にも目を向けながら内容を分析すること、以上である。